

人権を考える「ひろかわ」セミナー ～ 人権が尊重される住みよい町を目指して～

📞生涯学習課 人権・同和教育係 ☎0943-32-0093

一人ひとりの人権が尊重される住みよい町を目指して



▲開催のあいさつ(富山教育長)

スマートフォンやSNSの普及により、個人が社会に対して情報発信や問題提起できる「国民総メディア時代」が到来しました。誰もが簡単に声を上げられる開放的な社会になった反面、インターネット上で人権侵害が横行するなどの新たな課題も生じており、人権問題は以前よりも複雑化・多様化しています。広川町では、人権が尊重される住みよい町をめざし、11月12日(火)・18日(月)・29日(金)に有識者をお招きし「人権を考えるひろかわセミナー」を開催しました。今回は、全3回の講演概要と参加者の感想をご紹介します。

第1回 女性の人権
「性的同意」ってなに？



(公社)福岡犯罪被害者支援センター
浦尚子さん

あなたが望まない、同意のない性的な行為や発言はすべて「性暴力」です。

自分と他人の間には目に見えない「境界線」があり、それは相手の同意なく越えてはならないものです。もし、あなたが「境界線を越えて相手のことを知りたい」と思ったときは、相手の気持ちを一つひとつ言葉で確かめ(性的同意)、相手を理解したうえで歩み寄る必要があります。

〈参加者の声〉

・テレビや新聞などで、さまざまな性的被害が存在することは知っていましたが、詳しい実態が分かりました。何かあったらすぐに相談センターや警察に相談します。

第2回 防災と人権
「3度の大地震を経験ママから学ぶみんなに優しいびわこ」



歌う防災士しほママ
柳原志保さん

災害時に人権を守るためには「対立と競争」から「対話と共創」へと意識を変える必要があります。公助に依存しないためにも、一人ひとりが互近助(ごきんじょ)「困った時はお互いに行けること」から助け合うこと」の意識を持つことが大切です。

避難所の集団生活では、トイレなどの共用部分の衛生管理に気を配ることが、共助につながります。

〈参加者の声〉

・備えは大切だと思いつつも、災害時を具体的にイメージできていなかったことに気づきました。家族と一緒に災害の準備をしようと思います。

第3回 障がい者の人権
「障がいって何だろう? 障害は「いいことある」」



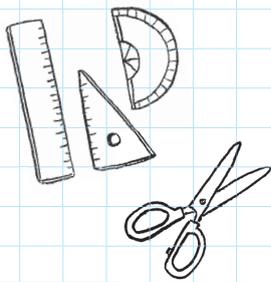
西部ガス絆結代表取締役社長
船越哲朗さん

社会では、一人ひとり役割が違います。なぜなら、特性が異なるからです。自分ができることもあれば、できないこともあります。できないからこそ、他人と支え合って生きているのが私たち人間であり、正しい社会の形です。

障がいがある人は「特別な人」ではありません。右利きの人や左利きの人がいるように、人と特性が異なるだけなのです。

〈参加者の声〉

・相手の特性を知る、そして知ろうとすることは大切だと感じました。たくさんの人に支えられています。私も人を支えたいです。人間でありたいです。



学校教育

教育週間に学校公開
をしました

☎子ども課学校教育係 ☎0943-32-1194

地域とともにある学校づくり

広川町では、地域とともにある学校づくりのため、毎年11月1日～14日の2週間を「教育週間」とし、学校の教育活動を町民の皆さんに公開しています。

全小学校で行われた「命の授業」では、命の尊さや大切さについて学び、多くの人が感銘を受けたようでした。

来年もぜひ、実際に学校の教育活動を見ていただき、さまざまなご意見をいただきたいと思っています。皆さまのご参加をお待ちしています。

〈参観人数〉

上広川小学校 182人
中広川小学校 571人
下広川小学校 285人
広川中学校 216人



演題「みんなに伝えたいこと」



持とう「私の夢」講演会

中学校では、キャリア教育の一環として「持とう私の夢講演会」が開催され、講師にJAふくおか八女・代表理事組合長の野中公彦さんをお招きしました。この講演会は、生徒が自分の将来に「夢」を持ち、その夢を仕事にできるよう、今の自分の生き方を考えることが目的です。

「みんなに伝えたいこと」という演題で、どのように困難を克服し夢を叶えたかなどのお話をいただきました。生徒たちは「自分はどんな夢や目標を持ち、学校生活に取り組むか」「障害や困難を乗り越えるために、どのような努力をすることが必要か」など、これからの自分の生き方について考えを深める機会になりました。

学校運営協議会の学校視察



11月6日(水)、学校運営協議会委員が各小中学校の児童生徒の様子や学校運営の状況、施設設備の状況などを視察しました。



▲ 中学校の作品展示の様子 ▲